

PTAが学校をつくる

校長 宮島 忠史

去る10月13日の創立60周年記念式典と記念祝賀会、翌14日のきらめきフェスタは、PTA会員のみなさまのご協力のお陰で大盛会でありました。ありがとうございます。残る記念誌の発行と募金活動につきましても、引き続き、ご協力いただきますようお願いいたします。

このところ2月に開催してありました“きらめきフェスタ”ですが、記念式典の翌日に予定されていた都野津町の地区運動会と同じ日に開催することで多くのみなさまに足を運んでいただけるのではないかと、生徒が取り組んできたキャリア教育「KAWARAプロジェクト」の成果を中学生やその保護者にも紹介するチャンスではないか、ということで学校説明会とあわせて開催したところです。中でも“きらめきフェスタ”ではPTA喫茶コーナーを設けていただき、生徒、保護者、教職員が一体となって取り組んでいる江津高校の様子を印象づけることができました。

学校と地域の連携ということでは、10月23日に島根県高P連が企画した研修に参加する機会がありました。津和野高校1年生の“トークフォークダンス”というプログラムで、町内の幅広い世代の協力者52人が1年生52人と一人ずつペアになり、司会（これも町民有志！）から出されるお題に

ついて1分間ずつ語り合うというものです。

一つのお題が終わればフォークダンスのように一人ずつずれて新しい相手と同じように対話を繰り返します。たかが対話の繰り返し、と思っていた私の大きな認識不足でした。1時間の“トークフォークダンス”

が終わってみると、会場全体があたたかくて安心できる心地よい空気に包まれていたのです。生徒は「たくさんの町の人と話せて嬉しかった」「自分はこの町に受け容れられていることがわかった」と、町民も

「来年も津高生に会いに来る」「津和野高校を応援したい気持ちにさらに強くなった」などと感想を述べ、町で学ぶ高校生を町で育てようという熱が伝わってきました。

学校によって取り組み方はさまざまですが、PTA活動の勢いは学校の勢いに比例すると考えています。その意味で江津高校の場合、今年の“きらめきフェスタ”PTA喫茶コーナーが学校と地域をつなげる強力な仕掛けになったと再認識したところです。

初めての豚汁作り

環境保健委員長 永井 亮子

11月14日(水)。昨夜の雨が嘘のように晴れた朝、私は副会長と共に、開店前の店に食材を取りに行きました。初めての豚汁作り。どんな風にするのか不安も感じつつ、学校まで持ち込みました。



調理室には保護者さんと先生がすでに来ておられ、中庭には大きな鍋が二つ置いてありました。

「この鍋に豚汁を…」責任重大なお役目と感じ、レース前の選手のようにすごく緊張しました。

しかし、食材を切り出すと、そんな緊張もどこかへ。さすが皆さん、主婦！食材を次々に制覇し、どんどん鍋に投入していききました。食材には、定番の野菜からまる姫ポークもあり、豪華なものがいっぱい！家庭では、ここまでの具沢山の豚汁はなかなか厳しく、本当に羨ましいと感じました。順調に進んでいるかに見えた豚汁作りですが、鍋の様子を見た時に事件は起こりました。

「あんまり煮えてないね。」
「地獄みたいにグツグツしてないね。」
どう見ても火力が弱く、具が煮えてないように見え、急いでガス屋さんご連絡してもらい、別の鍋で温める班と現状監視班とそれぞれ分かれ、完成に向けて頑張りました。

その後、江津高校の卒業生で当時、豚汁を楽しみにしていたというガス屋さんのおかげで、火力も復活し、味噌で味付けをし、教頭先生、副会長のOKも出て、無事に完成することが出来ました。おいしく出来たおかげで、生徒さんが何度もおかわりに来てくれました。途中、食べていない人数が把握出来ず、何人かおかわりを断ってしまいました。本当に申し訳なかったです。来年は今年よりもたくさんおかわりしてくださいね。

今回の参加で、普段話したことのない保護者さんや先生方とのふれあいが出来て、本当に参加してよかったと思いました。

参加していただいた役員の方々、そして運

営に携わられた先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



第68回全国高等学校PTA 連合大会佐賀大会に参加して

PTA副会長 安永 聡

『広めよう 高めよう 慈しむ心』
君たちがつくる希望の明日ををテーマに、8月20日・21日の2日間、佐賀県総合体育館を主会場として参加者約9千人で開催され、本校からは布施PTA会長と私の二人で参加してきました。

佐賀学園高等学校吹奏楽部の演奏のアクションで始まり、ラジオDJでおなじみのレモンさんこと山本シユウさんによる「レモンさんのビタミントーク！
慈しみの愛言葉！We are シンセキ！」と題し基調講演が行われました。時代は、第二の明治維新まったただ中。

叩き合い、迷い、孤独が増えています。あなたの命は、あなただけのものじゃない。遠慮なく助けてーと叫ぼう。昭和の考え方を变えて、平成の考え方に変わりたい。遠慮なく助けてーと叫ぼう。昭和の考え方を变えて、平成の考え方に変わりたい。遠慮なく助けてーと叫ぼう。昭和の考え方を变えて、平成の考え方に変わりたい。

分科会は、主権者教育と未来をつくるわたしたちの使命をテーマに佐賀県立佐賀東高等学校演劇部による生徒会長選挙を演題にした演劇を観賞しました。

一昨年から選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられました。若い世代から社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育てという教育活動をより一層期待させる劇でした。

その他、佐賀県出身の芸人はなわさんによるミニライブ。体脂肪計や「タニタの社員食堂のレシピ本でお馴染みの株式会社タニタの谷田千里社長による「日本を健康にするタニタの挑戦」と題した記念講演なども行われました。

混迷の時代を生き抜く子供たちとの関わり方やコミュニケーションの捉え方など考えさせていただく有意義な大会でした。

今回は2020年の島根大会の視察団としての参加でもありました。メイン会場からそれぞれの分科会会場に映像配信しながら開催されるなどいろいろな趣向を凝らした部分なども参考になりました。2年後の島根大会の成功に向け、そして子供たちの支えになるため、今後のPTA活動に大変参考になる貴重な大会でした。

奉仕作業

生活指導委員長 橋本 かえで

8月18日土曜日、毎年恒例のPTA奉仕作業が行われました。校舎の周辺、校庭とに分かれ、手ぐわや鎌、草刈り機などを使って作業をしていただきました。

今年は例年になく猛暑で、草もかなり伸びきっていましたが、多くの方に参加いただいたおかげで、ほんの1時間ほどで驚くほどきれいになりました。奉仕作業と聞くと、大変だなぁという印象があるかもしれませんが、終わった後のきれいになった学校を見ると、すごくすがすがしい気持ちでいっぱいになります。

長女が入学してから3年、部活と進路相談以外で学校にお邪魔することはなかなかないので、こういった行事に参加できることはとてもうれしく思います。まだ長男がいますので来年もまたこうやって参加できることを楽しみにしています。

最後になりましたが、奉仕作業にご参加いただいた先生方、生徒の皆さん、保護者の皆様、お疲れ様でした。先生方につきましては、作業がスムーズに進むよう、事前に準備していただき、本当にお世話になりました。来年もまた多くの方々にご参加いただけますようお願いいたします。

